

多利思北孤の謎に迫る

中高生向け古代史本好評

広域



「入門書として多くの人に読んでほしい」と話す小野さん

古代・九州に存在した倭国の天子、多利思北孤について中高生向けに書かれた解説本「日出ずる処の天子 阿毎・多利思北孤」(ドニエプル出版、本体900円)が好評を得ている。古代史愛好家メンバーの長年の研究データに加えて図表や写真を盛り込んだ集大成で「歴史の真実を広めたい」との願いが広まりつつある。

話題提供者と参加者が双方で学ぶ市民の勉強会「文化創造倶楽部」(世話人・小野元裕さん)の分科である古代史&歴史塾が手掛

けた。

著名な古代史研究家、古田武彦氏を支持する全国組織「古田史学の会」元全国世話人の木村賢司さん、大下隆司さんのほか、山浦純さん、田中弘さん、小野さんの愛好家5人が2000年から企画。古田氏の著書は無数にあるが、本人の承

諾を得てこれまでなかった「古田史学の入門書」づくりを目指した。隋の皇帝・煬帝へ「日出ずる処の天子、書を日没する処の天子に致す恙無きや、云々」との国書を送ったのが通説の聖徳太子ではなく多利思北孤であった。などを分かりやすく解説。小野さん

(45)は、中高生向けの要約や、すべての漢字にルビを振る細やかな作業を振り返り「次代を担う多くの若者が古代史に親んでもらうきっかけとなれば」と期待を寄せている。

問い合わせは電話06(6768)4600、新風書房。

(佐々木誠)